

特 集
NPPV

巻 頭 言

星 邦彦

非侵襲的陽圧換気 (Noninvasive Positive Pressure Ventilation ; NPPV) という概念の換気方法は、神経筋疾患患者におけるマウスピースや鼻マスクによる夜間の人工呼吸、そして新生児領域の急性呼吸不全である IRDS に対する Continuous Positive Airway Pressure (CPAP) として使用されてきました。1980 年代の中ごろから、閉塞型の睡眠時無呼吸症候群に mask CPAP が使われ始めてから、脚光を浴びるようになってきました。特に、マスクなどのインターフェイス、そして人工呼吸器そのものが大いに進歩してきた現在では、慢性呼吸不全の急性増悪から、従来は NPPV の使用が躊躇された成人の急性呼吸不全から小児まで幅広く、そして、医師ばかりでなくコメディカルが容易に使用できる人工呼吸法として使用されるようになって来ました。そこで、日頃積極的に NPPV を臨床応用されている先生方をお願いして、NPPV の適応・禁忌、そしてどのようなことに注意したら上手に使用できるかなどを解説していただこうとこの企画を考えました。

治療法として確立している COPD・気管支喘息を担当していただいた石原先生には、疾患の病態から NPPV を含む治療法まで幅広く解説してもらいました。まだ、効果が確立していない ALI/ARDS に対する NPPV を担当していただいた谷口先生には、どのようにしたら ALI/ARDS に NPPV が応用できるか解説してもらいました。昨年治療効果に反論がだされた急性心原性肺水腫を担当していただいた竹田先生には、NPPV の使用方法ばかりか、反論の統計学的間違いを指摘してもらいました。坪光先生には、術後呼吸不全に対する NPPV の有用性を解説してもらいました。エビデンスが少ない小児呼吸不全を担当していただいた陳先生は、貴重な自験例を中心に解説していただきました。濱本先生には、実際に NPPV を行うことが多い看護師の目からみた NPPV 療法と教育について解説していただきました。俵先生には、リハビリテーションから見た NPPV における呼吸理学療法の実際について述べてもらいました。

NPPV は、気管挿管をしなくてよい補助的な人工呼吸と言うより、従来の気管挿管を用いた陽圧人工呼吸療法の合併症を回避し予後を改善する呼吸管理法の地位にまで上昇したと思われます。本企画は、現に NPPV を行っている医療従事者ばかりでなく、これから NPPV を行おうとする医療従事者に役立つことを願います。